

01

January  
2026

[月刊] キリスト教書評誌

# 本のひろば

HON-NO-HIROBA



ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター  
1957年7月17日第三種郵便物認可  
2026年1月1日発行(毎月一回1日発行)  
第817号

特集シリーズこの三冊!

あとで効く聖書  
最相葉月

神との関係を深めるために  
—ヘンリ・ナウエンのこの三冊! 徳田 信  
**本・批評と紹介**

山田 望、袴田 琳、坂田奈々絵、山田 順編／キリスト教史学会監修  
古代・中世キリスト教における女性イメージ 小松加代子  
上田光正著

バルトによる説教論 小泉 健

ヘンリ・ナウエン著／渡辺順子訳／英隆一朗解説  
ナウエンセレクション 新しい生き方 片柳弘史

奥田知志編

平和を受け継ぐ者に 伊藤朝日太郎

芦野与幸著

ヴォーリズの足跡に魅せられて 田淵 結

竹田純郎著

技術時代における宗教、キリスト教 江口再起

現代において信仰はいかに可能か 嶺岸佑亮

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳  
イザヤ書註解II 野村 信

マシュー・ハケネス著／穂田信子訳

マルティン・ニーメラー 三村 修  
アイリーン・クレイゲル著

日々の默想 今ここに気付く 柳田敏洋

日本聖書協会編

旧約聖書詩篇 四訳対照 春日いづみ

四訳対照 春日いづみ

# 新しいパウロ

パウロの何が新しかったのか?

12月22日

パウロは、ユダヤ教の唯一神信仰、選民思想、終末論をどう再定義したのか。パウロの福音理解を新鮮な目で読み直し、ローマ帝国という政治的背景をも視野に入れながら、彼が宣教した創造と契約と終末、そして神とその民の壮大なストーリーを蘇らせる。従来の贖罪論にとどまらないキリスト教。

四六判・定価2970円

# ディートリヒ・ボンヘッファー

抵抗に生きた神学者

没後80年記念、最新の評伝

クリスティアーネ・ティーツ著／橋本祐樹訳

ボンヘッファー研究の新世代をリードしてきた著者が、反ナチ抵抗運動に殉じた生涯と思想を立体的かつ簡潔に描き出した評伝。近年の受容史も詳説し、ボンヘッファー入門としても最適。2024年の第3版が底本。

四六判・定価2640円

# マルティン・ニーメラー

ヒトラーに逆らった牧師

英雄視を排し、その素顔に迫る

マシュー・ハケネス著／梶田信子訳 元UBボート艦長で一時はナチを

支持した保守的牧師がナチの教会政策に抵抗して強制収容所に囚われ、戦後はドイツの教会の罪責告白を主導した。その激動の生涯を気鋭の歴史家が辿る。

四六判・定価4400円

# 神学と社会理論

世俗的理性を超えて

ジョン・ミルバンク著／原田健一朗訳 ポスト・リベラル神学を主張

する「ラティカル・オーソドキシー」の出発点。アングロカトリックの伝統に連なる断固たるキリスト教社会主義者の面目躍如たるものがあり、また現代思想との対論は極めて刺激的。2006年の第2版に基づく待望の邦訳

A5判・定価9350円



# 宗教活動におけるマイクロアグレッション

キリスト教会の日常に潜む暴力と向き合う

四六判・定価2970円

サンダース＆ヤーバー著／真下弥生訳 人種や性差などへの偏見の

無反省な再演から意識的な嫌がらせまで、親密圏で生じる他者の属性への攻撃は教会も決して無縁でない。その構造を探り、対策を考える。

大反響



# あとで効く聖書



最相葉月



実家の整理をしていた時、文庫サイズの小さな聖書を見つけた。日本国際ギデオン協会が小学校の校門で配布していたものだ。ふだん読んでいたわけではない。時折読むようになったのは悩み多き思春期に入った頃だ。「折にかなう助け」の頁を開くと、「悲しみで心がふさぐ時」「友達に裏切られた時」といった項目別に読むべき聖句が示されている。切羽詰まっているから、すがるようにページを開く。意味が理解できたわけではないが、なぜか心が落ち着いた。ハウツー本ぽい読み方に思える

が、聖書の入口としてはこれでいいのだろう。実家を出てから読むことはなかつたが、旅先のホテルで見かけると、これがきっかけで信仰をもつ人はいるのだろうかと思つたりした。

取材で高松の救世軍を訪ねたとき、ギデオン協会の会員で聖書を配布している方に出会つた。協会は宗教法人ではないので

師用には機密保持について書かれたナイチンゲール誓詞が載っている。高齢者施設用もあるそうだ。ただ近年は学校で配布するのがむずかしく、とくにオウム真理教事件後は門を閉ざすようになつたという。ほかの教会でも耳にしたが、オウムは宗教全体への信頼を揺るがせたという意味でも罪深い。

新聞で人生案内の回答者を務めているが、この人に信仰があればどれだけ助けるになるかと思うことはたびたびある。そうは書けないが、悩み苦しみのほとんどは「折にかなう助け」に網羅されており、視点を転換させるきっかけにはなるはずだ。

ギデオンの聖書ですぐ教会に来る人はいないという。「冷酒と親の小言はあとで効くっていうけど、あれと同じやな。聖書もあとで効くんや」。高松の方の言葉を思い出し、我が身を振り返つてゐる。

(さいしょう・はづきⅡノンフィクションライター)  
撮影／平瀬拓

いろんな種類の聖書があることなどうかがつた。たとえば看護

## ▼シリーズ この三冊！

神との関係を深めるために

—ヘンリ・ナウエンのこの三冊！

徳田 信

（とくだ・まこと・日本キリスト教団蒲田教会牧師）

『傷ついた癒やし人』  
新版

として、ナウエン自身の著作と共に読むとしたら何が良いかと思い巡らすようになりました。以下でご紹介する『傷ついた癒やし人』、『平和の種をまく祈り、抵抗、共同体』、そして『アダム 神の愛する子』は、こうして思いついた三冊です。

2025年の春から約半年間、NHKラジオ「宗教の時間」で酒井陽介神父によるヘンリ・ナウエン（1932～1996）の講座が放送されました。その中で酒井神父は、「思いどおりにならない現実」を抱えて生きる私たち現代人に、ナウエンの言葉がどれほど深い慰めと励ましを与えるかを示しておられました。

ナウエンはローマ・カトリックの司祭であり、心理学とキリスト教靈性を結びつけた教師として知られています。その中で、次のステップ

『傷ついた癒やし人 新版』  
本書は、ナウエン初期の代表作にして彼の思想の原点をなす一冊です。牧会学を学んだ人なら一度は手に取ったことがあるでしょう。しかし、これは聖職者のためだけの書ではありません。あらゆる人が他者に仕える「癒やし人」となり得るという普遍的なメッセージを持っています。ナウエンは、私たちが避けたいと思う傷、たとえば孤独や失敗や痛みこそ、他者を癒すために神が用いられる素材であると語ります。そこで指示されるのは、傷を

祭であり、心理学とキリスト教靈性を結びつけた教師として知られています。

酒井神父の放送期間、わたしは友人たちと定期的に講座内容を分かち合ってきました。その中で、次のステップ

として、ナウエン自身の著作と共に読むとしたら何が良いかと思い巡らすようになりました。以下でご紹介する『傷ついた癒やし人』、『平和の種をまく祈り、抵抗、共同体』、そして『アダム 神の愛する子』は、こうして思いついた三冊です。

負った癒やし人であつた主イエスのご自身の姿です。

実はナウエン自身も傷ついた癒やし人でした。たしかに彼の講義室には多くの学生が詰めかけ、彼もまた講演のために文字通り世界中を飛び回つていました。しかし、拍手喝采を浴びる日々を送りながらも、夜、自室に戻ると激しい孤独感に襲われたといいます。

友人に寂しさを訴える電話をかけすぎて、家賃より電話代が高くなつたという逸話も残ります。さらに、司祭として生涯独身であることを誓いながらも、カミングアウトできない性的指向との葛藤に苦しみました。その痛みを主イエスの光に照らして受け止めることができたのが、靈的探求の原動力となりました。

共同体や低みに生きる豊かさを語つて来たナウエン。しかし実際に身を置いていたのはイエールやハーバードという高みを目指して孤独の中で競い合

う場でした。こうしてナウエンは「神と人の眞の交わり」への飢え渴きを強めていきます。そしてついに、大学

を去つてラルシユ共同体という障がい者と共に暮らす場に身を移しました。

世間はこれを慈善行為と見たかもしれません。しかし実際には、眞実の愛を求める旅路の果てに行き着いた選択でした。

この遍歴の末に生まれた小著『イエスの御名で』（あめんどう、1993年）も短くご紹介しましょう。私自身、この書を青年時代に手にしたことがナウエンとの出会いとなりました。地道な関わりよりも権力に頼る誘惑、知性偏重になり身体性を軽視することの危険、導くよりもあえて導かれる者による幸いなど、自分のあり方を深く搖さぶられる衝撃を受けました。その後も、紛争への抗議など、平和の証人として歩みました。湾岸戦争前夜には首都ワシントンで一万人を前に説教し、平和の経験をしたとき、幾度も読み返して

きた珠玉の一冊です。

### 『平和の種をまく 祈り、抵抗、共同体』

ナウエンは一般に「内面の教師」として知られていますが、その靈性は個人の内面だけにとどまるものではありません。彼の友人だった平和活動家ジョン・ディアガ指摘するように、その生涯は「平和の靈性」に貫かれていました。祈りと抵抗、默想と行動、そして個人の内面と社会とを結びつける、きわめて実践的な信仰のあり方です。

オランダに生まれたナウエンは、ベトナム戦争期のアメリカに渡り、キング牧師の非暴力行進に参加します。その後も核基地での座り込みや中南米の紛争への抗議など、平和の証人として歩みました。湾岸戦争前夜には首都ワシントンで一万人を前に説教し、平和の経験をしたとき、まことのキリスト

ト者であると訴えました。

ただし、ナウエンの平和への取り組みは、一般的な平和運動とは一味違います。力に対抗しようと同じく力に頼ることを戒め、主イエスが、十字架とそこに至る生き様で示した非暴力と赦しに立ち返ろうとしました。彼は効率性やスピードの追求が、一種の暴力として戦争につながることを見抜いていました。それは教会も無縁ではなく、信仰の名の下に行われる力の行使に痛みを覚えていました。

ナウエンは祈りを、恐れや憎しみの連鎖を断ち切る静かな抵抗と見ていました。祈りの中で神の無条件の愛に身を浸すとき、「敵」をも愛する自分を超えた力に気づきます。この愛に根ざした関係回復こそまず求めるべきものですね。なぜなら、大きな組織や運動よりも、まず小さくされた人々との交わりの中に平和は芽生えるからです。それ

が主イエスの道です。

本書が教えてくれるのは、「祈り」「抵抗」「共同体」という三つの糸が一つに織り合わされてこそ、平和が形づくられるということです。平和は遠い理想ではなく、私たちが日々の関係の中でよく小さな種のようなもの。平和を願うあらゆる人々と共に耳を傾けたいメッセージです。

### 『アダム 神の愛する子』

ナウエンの最高傑作は何かと問えば、

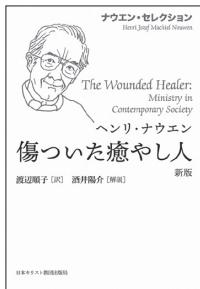
読者によつて答えは異なるでしょ

う。ナウエン研究者の故・大塚野百合先生は本書『アダム』を挙げています。ラルシユでナウエンが深く学んだのは、巧みな言葉に頼ることなく、生身の存在として人と関わることです。特に、戸惑いつつ始まつた青年アダム・アーネットとの共同生活は決定的でした。

アダムは言葉を発することも、歩く

こともできず、他者の支えなしには生きられない重度障がい者でした。ナウエンは、そのアダムこそが、どんな神学書や大学教授よりも深く主イエスへと導いてくれたと記します。大学で教鞭をとつていた頃、ナウエンはいわば「癒やす側」にいましたが、ラルシユでは「癒やされる側」になつたのです。アダムの身体を拭き、食事を介助する日々——そのような身体的関わりはナウエンに、苦難と愛に身を委ねた主イエスに、苦難と愛に身を委ねた主イエスとの出会いを与えました。

人間の価値を生産性や能力で測る一般社会に対し、アダムの存在は「弱さのうちにこそ神が住まう」というキリスト教的逆説を体現しています。その意味でこれは障がい者論にとどまりません。私たち人間は偶然に左右される存在です。ちょっとしたボタンの掛け違いで親しい関係が破綻します。予期せず病気が発覚したり、事故や自然災



## ナウエン・セレクション 『傷ついた癒やし人 新版』

ヘンリ・ナウエン：著

渡辺順子：訳

酒井陽介：解説

日本キリスト教団出版局

2022年（原著1972年）

四六判

168頁

1,980円



## ナウエン・セレクション 『平和の種をまく——祈り、抵抗、共同体』

ヘンリ・ナウエン：著

渡辺順子：訳

徳田信：解説

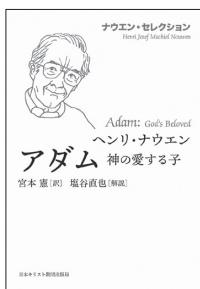
日本キリスト教団出版局

2024年（原著2005年）

四六判

192頁

2,420円



## ナウエン・セレクション 『アダム——神の愛する子』

ヘンリ・ナウエン：著

宮本憲：訳

塩谷直也：解説

日本キリスト教団出版局

2020年（原著1996年）

四六判

192頁

2,200円

害に遭つたりします。何より、すべての人が老いに向かい、その先には死が控えています。誰もが潜在的に弱さを抱えているのです。

強さの追求は互いをライバルと見なし、人を孤独にします。しかし弱さに向き合い、それを分かち合うことは人を深いところでつなげます。12ステップ・プログラムなどの自助グループの

有用性はその例証です。私たち人間のあらゆる弱さの中にこそ、主イエスの姿が浮かび上がつてくる——本書『アダム』はそのような証言の一つです。

ナウエンは生涯をかけて、信仰とは「力強く成功すること」ではなく、「弱さを通して愛を学ぶこと」であること

を体得していきました。私たちの人生

は、ありきたりな人生訓や倫理道德の言葉に収まるほど単純ではありません。そのような現実の「ままならない」痛みと葛藤の中でこそ主イエスに出会う——ナウエンの著作がその助けとなれば幸いです。

## 女性たちはどうのように生き、 どのような活動をしていったのか

〈著者〉 小松加代子



### 古代・中世キリスト教 における女性イメージ

山田 望、榎田 玲、坂田奈々

繪、山田 順編  
キリスト教史学会監修



古代ローマから一二三、一四世紀までという長い時間軸の中で、しかも壁画、図像学史料、文献資料など幅広い史料研究を解読しながら、その中に女性の生きた跡を探るという、地道ながら壮大な意図を持つた研究書である。評者はキリスト教史学の専門家ではないため、ジエンダーの視点から、古代・中世の女性たちがキリスト教社会の中でどのように生きていたのかを本書から抜き出してみたい。

まず、四世紀後半から五世紀初めにかけてローマ市を中心活動したペラギウス派による書簡群から、貧者や孤児の救済に関わる女性たちがいたことがうかがえる（第三章）。キリスト教徒ではなかつたが、四世紀後半に哲学や天文学、数学の研究で歴史上名高いヒュパティアが生まれ、宗教間の対立を超えた教育活動を行っていたことが知られている（第二章）。また、五世紀のビザンツ皇妃エウドキ

ア作とされる『ホメロス風聖書物語』では、従順なだけでない自主性ある聖母マリアが描かれ、女性から女性に向けられた励ましのメッセージが見られる（第五章）。四〇五世紀に書かれたアウグスティヌスの女性信者たちに宛てた書簡からは、禁欲的結婚生活に入る誓約のもとにある既婚女性、修道的生活に関心のある篤信の寡婦、独身女性がいたことが浮かび上がる（第四章）。さらに一二、一三世纪には修道院に属さずとも弱者の救貧活動に勤しんだベギンと呼ばれる女性たちが「敬虔な女性たち」と称されていたことが分かる（第九章）。

しかし、ペラギウス派の教義はのちに異端と断罪され、ヒュパティアは暴徒化したキリスト教徒集団に殺害され、ホメロス風聖書物語で語られた聖母の行動はその後の正典聖書には見ることができない。またベギン運動は一四世紀

には異端とされる。アウグスティヌスは既婚女性たちに対して、夫の同意のもとにともに禁欲生活に入るよう諫めている。こうして、かすかに見えた女性たちの行動も、やがてキリスト教社会の中心から外される運命となっていく。

それではキリスト教会の中で生き残つていった女性のイメージはというと、その多くは結婚と処女という言葉とともに。大聖堂の建立にあたつて、献堂式が結婚イメージと結び付けられ、花嫁であるキリストに捧げられる教会は花嫁で、唯一の神への愛を示し、神への忠誠は義務とされる（第六章）。ビザンツ帝国末期の正教を代表する思想家グレゴリオス・パラマスは、マリアは処女性を自らの意志で守つたことによって、自身も女主人として万物を治める権威を持つ、と考えた（第七章）。このような女性イ

メージを記述しているのは、ほとんどが男性である。第二章の出村氏が最後でまとめているように、史料に記された女性イメージは「実在した個々の女性を離れて、実際に形成され、発展したイメージでもある」（七四頁）こと、また第九章の後藤氏が指摘するように「正統の代弁者として期待・利用された」（二四四頁）ことも明かされている。あえて原典史料を精緻に読みこなし、状況証拠を丹念に積み上げることで抽出した女性イメージは、さらなる歴史解釈を求めており、その意味ではフェミニスト神学とつながることによって別の視点がみえてくるのではないかと思われる。

（こまつ・かよこ）多摩大学名譽教授  
(A5判・二六八頁・定価四〇七〇円・教文館)



## 植村正久と日本の教会

現代日本を植村正久と語る

崔炳一 著  
Choi Byung-il



日本基督教団神学校  
植村正久記念講座

## 植村正久没後一〇〇年

教会形成に生涯を費げた  
植村との対話をとおして  
宣教のあり方を問い直したい。

植村はこう言うであろう。  
信教の自由を守るために  
日曜日遵守を重んじ  
その自由を妨げる  
この世の力に対しても  
常に抵抗の精神を  
忘れてはいけない、と。

A5判・並製本

定価3,300 [本体3,000+税] 円  
ISBN978-4-86325-170-0



株式会社 一斐出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10

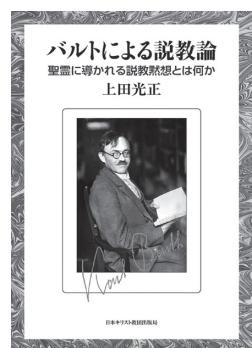
TEL (011) 578-5888

<http://www.ichibaku.co.jp>

携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

## 神の言葉を届ける説教の神学を 鮮やかに提示する快著

〈評者〉 小泉 健



バルトによる説教論  
聖靈に導かれる説教默想とは何  
か  
上田光正著



説教とは何でしょか。説教は「聖書の言葉に基づく語り」だと言えます。それなら、「聖書の言葉に基づく」とはどういうことでしょうか。一節一節を順番に説明していくべきよいのでしょうか。それは聖書研究にすぎず、説教ではありません。説教は、聖書「について」学習することに留まらず、聖書が語りたいことを、生きた言葉で届けることであるはずです。説教の言葉が聖書の言葉と一体となつて、聞き手の魂に語りかけ、聞き手を救し、慰め、生かすようでありたいのです。説教者は皆、このことをめぐつて苦闘していると思います。これを実現するにはどうしたらよいのでしょうか。本書は、説教に取り組む上でもつとも大切なこの問題を取り上げ、鮮やかに答えてくれます。

カール・バルトは二〇世紀を代表する神学者です。バルトが営んだのは教義学であって、実践神学ではありません。

（日本基督教団出版局）の前半に訳出されています。）

しかし、バルトの神学は、バルト自身の説教者としての苦闘から生まれてきており、牧師の学として展開されていると言えます。また、バルトは大学教授になつてからも、生涯にわたつて説教者であり続けました。それなら、説教することについてバルトから何を学べるのでしょうか。

本書はタイトルにあるとおり「バルトによる説教論」です。バルトから説教について学ぼうとするなら、一九二〇年代の諸講演を参照することもできましょう。『教会教義学』をひもとくこともできます。しかし本書は、バルトの『説教学』に集中します。これは、バルトが生涯でただ一度だけ担当した、説教学演習の記録です。この演習で

バルトは、説教の定義から具体的な説教準備に至るまでを扱いました。（日本語では、『神の言葉の神学の説教学』

本書の著者上田光正先生は、牧師・説教者であるとともに、生涯にわたってバルトと取り組んだ組織神学者でもあります。バルトとの取り組みの結晶が『カール・バルト入門——21世紀に和解を語る神学』（日本キリスト教団出版局）として示されています。ですから、本書も、バルトの神学についての深く確かな理解を背景にしています。しかし、本書はバルト研究の書物ではないし、バルト「の」説教論でもないと言うべきでしょう。バルトに教えられつつ、わたしたち自身が「説教とは何か」についてのたしかな理解を持ち、その説教を実際に行うための手引きをなすものです。まさに、バルト「による」説教論です。

聖書の言葉が今ここで語り出すことに仕える説教をするためには、説教者自身が聖書の言葉に聞き、神の言葉を受けています。本書の冒頭に述べたように、「鮮やかに」として示されています。本稿の冒頭に述べたように、「鮮やかに」それがなされているのです。

日本のプロテスタント教会の説教は、加藤常昭先生の神学や説教塾を通しての働きに大きな影響を受けました。その加藤先生は常々、「説教塾の神学は神の言葉の神学だ」と言っておられました。加藤先生や説教塾の説教論の神学的な背景を知るためにも、本書は必読書と言えます。本書によつて、ほんやり捉えていたことに言葉を与えられ、思わず膝を打つことになるはずです。

（こいづみ・けん＝東京神学大学教授）

（A5判・一八四頁・定価三〇八〇円・日本キリスト教団出版局）

# 増補改訂 キリスト教入門

嶺重淑

## こどもに語ろう 聖書のおはなし160

久世そらち 編



歴史・人物・文学

世界と日本のキリスト教史、歴史に大きなインパクトを与えたキリスト者16名の評伝、ドストエフスキイから三浦継子、遠藤周作まで不朽のキリスト教文学15作品を、各項目見開きで簡潔に解説。

A5判 並製・112頁・定価1540円



B5判 並製・96頁・定価2200円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

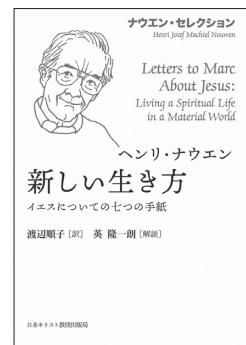
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigoyou@bp.ucci.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-ucci.jp>

# 信仰のバトンを次世代につなぐ ——ナウエンによる信仰入門

〈評者〉 片柳弘史



ナウエンセレクション

新しい生き方  
イエスについての七つの手紙

ヘンリ・ナウエン著  
渡辺順子訳

英 隆一朗解説



本書は、20世紀を代表する靈的指導者として知られるヘンリ・ナウエンが、オランダに住む甥のマーク宛てて、自分にとってイエスとは誰なのか、イエスと共に生きるはどういうことなのかを綴った7通の手紙によって構成されている。

自らの信仰の苦悩を赤裸々に語ることで知られるナウエンが、信仰から離れてしまった甥にイエスの素晴らしさを伝えたいという思いに駆られ、迷いなくはつきりと、力強い口調でイエスへの信仰を告白している点で注目に値する。自分にとってイエスが誰であるかを、エウカリスチアの秘跡（感謝の祭儀。聖体拝領を頂点とするミサのこと）との関係で語っている点で、カトリック司祭としてのナウエンの真骨頂が發揮されているとも言える。

エマオに向かう弟子たちに現れた復活のイエスのように、

人間の苦しみに耳を傾け、人間の心に信仰の火を灯す、苦しみからの解放者としてのイエスを語った後、ナウエンは、私たちと共に苦しんでくださる神であるイエスについて語り始める。「神は私たちから苦しみを取り除くことによつてではなく、私たちと苦しみを分ち合うことによつて、私たちを解放しようとされた」というのだ。この言葉を読んで私は、「私たちの人生、孤独、苦しみ、そして死さえ分かち合うことによつて、イエスは私たちを救おうとされたのです」と語り、貧しい人々と共に苦しむことによつてイエスに倣つたマザー・テレサを思い出した。

ナウエンも、マザー・テレサも共に、「我が神、我が神、なぜ私をお見捨てになつたのですか」というイエスの叫びに、神の愛の頂点を見出している点も興味深い。イエスは、人間が味わう最もひどい苦しみである神から見捨てられる



反響

## 私を遣わしてください

ポーラ・グッダー著 中原康貴訳

レントのこころ

苦しみさえ、人間と共に味わつてくださつた。ナウエンも、マザー・テレサも、そこに神の愛の頂点を見ているのだ。ナウエンはイエスを、「私たち一人ひとりの心の中に隠れた神であるとも言う。イエスは「私たち自身の心という隠れた場所で、私たちと語り合いたいと望んでおられる」というのだ。自分の心の中にイエスがいるのにまだ気づいていないなら、私たちはまだ自分を知らない。自分の心の中にイエスがおられることに気づいたとき、私たちは初めて自分が誰であるかを知り、自分を愛せるようになる。それと一緒に、出会う人々の中におられるイエスに気づき、そなへを愛せるようになるということだ。被造物に対する愛は、被造物のうちに隠れた神、イエスとの出会いから始まる」というキリスト教信仰の基本を、ナウエンはとても分か

りやすく解き明かしている。

最後の手紙でナウエンは、「人生において何をするにしても、心の中のイエスの声に耳を傾け続けましょう」と甥に勧める。それが実現したとき、もはや「予測可能なこと」は一つもなくなるが、同時に「どんなことも可能になる」からだ。進むべき人生の道は、イエスがすべて示してくれる。イエスの声に導かれて進む限り、迷子になることはない。自分の体験から、ナウエンはそう確信していた。全体として、多くのキリスト教徒が共感できる内容と言つていいだろう。この本を通して、信仰のバトンが次の世代へと受け継がれていくことを願わずにいられない。

(かたやなぎ・ひろし)イエズス会司祭

(四六判・一六〇頁・定価二二〇〇円・日本キリスト教団出版局)

## 意味は待つことにある

ポーラ・グッダー著 中原康貴訳

アドベントのこころ



好評発売中

異世界だが親しみがあり、人寄せ付けないながらも人を惹きつけ、生氣はないけれども生命を与えてくれる。レント(受難週)は、私たちを二面的な荒れ野に足を踏み入れるよう招いている——レントの精神を解き明かす教会暦手引書の第2弾。最新刊 四六判・二〇〇頁・一八七〇円  
ドベント読本。最新刊 四六判・一六八頁・一八七〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き／星(税込)

## 戦争体験を証言する者と 聞く側、読む側の相互作用

〈評者〉 伊藤朝日太郎



平和を受け継ぐ者に  
戦争証言・使命・祈り  
奥田知志編



先の戦後80年の節目に私の所属教会で教会員の戦争体験を聞く集いが開かれた。所用のため参加できず残念に思つたが、のちにその体験談が教会報に載り、貴重な証言を読めてほっとした。これはこの本の読後感でもある。

「今、思えば、あの惨状の中で一刻も早く逃げたいばかりに、悲惨な現状を見ても、その場を横目で見ながら立ち去つたことが残念でたまりません。どんなときであつても戦争だけはしてはいけないと思いました。……原爆の体験

ら執筆依頼や取材を受けることによって、重い口を開き、あるいは筆を執つてくださった。そのことが、戦争の美化や、歴史修正主義を克服することにもつながる。

本書で印象的なのは、聞き手との相互作用が働く3本のインタビュー記事だ。聞き手は戦争経験者の孫世代、私と概ね同世代だ。広島で被爆した牧師、沖縄戦で数名の日本兵から「子どもたちを殺すか、さもなくば、ここから出て行け！」と壕から追い出されて戦火の中で親きょうだいを失つた司祭、満洲から引き揚げてきた教会員のお話を、その方にゆかりのある牧師や教会員が聞き、自らの課題として引き受け、変容していく姿が読める。いつも静かに教会の席に座っているの方が、あるいはいつも元気に平和運動に邁進しているの方方が、こんな記憶を抱えていたのか、という聞き手の衝撃、発見、決意が伝わってくる。

私は以前から、教会は平和のために祈っているだけではだめだ、一歩でも歩みを起こさなければ、と歯がゆく思つてきた。しかし同時に、教会だからこそできることがあるのではないかとモヤモヤしていた。そのモヤモヤを解くヒントが随所に盛られているのも本書の特徴だと思う。

「人間はみな平等だ」という教えのもと、日本軍の傀儡政権下の満洲で、中国の青年のための無料夜学塾を開き、中国人の眞の友が与えられた三田照子さん（106ページ）、平和を祈る私たちは、神と人、人ととの間にゆるしが必要なのだと思つています。私たちの間に『ゆるす』との声が聞かれないうちは、この世の眞の平和は來ないので感じています。全国の教会が礼拝前の10分間、平和のために悔い改め、ゆるし合えるよう祈ることを願います」と

語る清水幸子さん（121ページ）の言葉には、教会が伝えてきた最良のエッセンスが感じられる。

また、「長崎の平和運動は教会間、信徒同士の柔軟な横のつながりや市民団体と共に歩む中で進められてきました」（63ページ）との言葉からは、教会やYWCAというキリスト教の伝統を受け継ぐグループが市民運動を支えてきた歴史が浮かび上がつてきました。

戦後80年の今、多くの教会やキリスト教主義学校で、また家庭で、「私たちにゆかりのある人の言葉」としてこの本の多様な証言が読まれ、歩みが起こされることを願つてやまない。

（いとう・あさひたろう＝弁護士、日本基督教団大泉教会員）  
（四六判・一四四頁・定価一六五〇円・日本キリスト教団出版局）

## 滝沢克己 滝谷美佐保〔編〕 人生の難問に答えて 中学生の孫への手紙

反響  
滝沢克己さんは孫への手紙も全身全霊。  
唯一つのいのちそのもの語る!  
滝沢克己  
中学生の孫への手紙  
人生の難問に答えて  
最新刊 新書判・一二八頁・一三二〇円

## 濱和弘 著 小金井福音キリスト教会牧師 隠れた神からの語りかけ 第三弾! 特殊啓示論 釜の神学II

「汝ゴジラが上映されたならば公開初日の初回上映を見るべし!」は濱家十戒の第一戒。リテラリイに真摯に答える7通の手紙を書いた  
時代になお語りかけてやまない。  
続代が、中学生の孫からの素朴な問  
題に答えるが、神の言葉である聖書を、どのように解し、啓示論に現され  
るか。前著「普遍啓示論」にくらべて、いかに良いのか。  
第二弾!  
四六判・三〇八頁・一二〇〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き/星(税込)

## 「メレル・ヴォーリズの生涯マップ」として

〈評者〉 田淵 結



ヴォーリズの足跡に魅  
せられて  
かおりの宝庫を訪ねる  
芹野与幸著



今回出版された芹野与幸氏の『ヴォーリズの足跡に魅せられて』はまさに「ヴォーリズ生涯マップ」という意味でとても興味深い。率直に一読者として申し上げるならば、この一冊のサイズの割に内容が濃すぎると言うべきか、とにかく圧倒的な情報量を持っているという印象さえ与えられる。その内容のあらましさえもこの限られた紙数ではとても紹介できないが、氏のこれまでのお仕事・ご関心の積み重ねからこれだけの資料、情報を網羅されたのである。『生涯マップ』とは、ぜひこの書物を手にされるときには、近江兄弟社月刊誌『湖畔の声』連載の「からし種のゆくえ」を中心にまとめられた本書各章の記事、そこに登場する人物ひとりずつについてメレル・ヴォーリズとのつながりや関係を大きな一枚の用紙にプロット（図示）していくと、自然に「ヴォーリズ生涯マップ」が描き出され

るのではと思わされるからだ。それによってまさにメレルという存在が生きた社会、むしろ「世界」というべき広がりが一望されることだろう。筆者が事務局をお預かりしているヴォーリズ建築文化全国ネットワークは、日本国内のヴォーリズ建築作品の大半の所在地を示した「ヴォーリズ建築マップ」（山形政昭編）を五年ごとに発行しているが、二〇一五年版を本年六月に三千部を発行しすでに二千部を上回る部数が販売された。それだけヴォーリズ建築に親しみを感じられる方々の多さを感じさせられるが、本書はその方に、このマップの「肉付け」という意味において大いに歓迎される一書となることだろう。メレルがただその建築作品を通じて知られている以上に、芹野氏が「信仰の先達者」と評されるキリスト教活動を軸として、実に多方面への活動の広がりをもつことをこの書を通じて改めて教

えられるだろう。だからこそ、私たちが改めてヴォーリズの世界をご自身で図示していかれることで、芹野氏がわたしたちに提示されるヴォーリズの存在の全体をより深く、身近に理解できるものとなるだろう。

私自身は関西学院というキリスト教主義学校とのつながりをゆるされてきた一人として、ヴォーリズが一九一〇年代から晩年まで関西学院キャンパス形成に大きくかかわることになった、その端緒ともなる当時の高等学部長、後の第四代院長となるベーツとの出会いを、芹野氏は同じカナダメソジスト宣教師であつたノルマンを想定しておられる。私はメレルが一九一一年以後の神戸YMC Aとのつながりのなかで宮田守衛氏（第十二代関西学院院長宮田満雄氏ご父君）との出会いも大きかつたのではと考えている。ただ

し本書全体の記述のなかでそれは一般の読者の方にとつては細かにすぎる事柄にすぎないだろうが、そのような細部まで氏の関心が及んでいるところもまさに、氏の今日までの入念な研究と思索の成果が示されていることを示すものだろう。

（たぶち・むすび＝関西学院第十六代院長、ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク事務局長）

（四六判・三〇八頁・定価一九八〇円・ヨベル）

特集 人間の安全保障とカトリック教会

「核兵器の保有そのものが倫理に反する」  
倫理的政治的に有用な「人間の安全保障」のために  
安全の必要と限界―神は我が砦―  
安全の必要性を神学する

「正しい戦争」「正しい平和」

ニケア公会議一七〇〇周年記念文書について  
文明と一神教  
パウロ書簡の教会論についての研究  
箴言における注意喚起の技法

R・J・クリフォード  
J・N・アレッティ  
A・B・ド・デーム  
L・S・ケイビル  
K・ヴェンツエル  
R・A・クイン

上智大学神学会  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel & Fax (03)3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

# 神学ダイジェスト139号

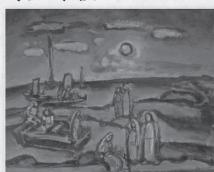
急速な変化を遂げる現代社会。その中にあつて、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかるえる信仰への真摯な問い合わせに光をあてる。

2025年12月発行  
A5版120頁  
定価638円（税込）

## 時代の危機に抗する 哲学的思索の書

〈評者〉 江口再起

技術時代における宗教、  
キリスト教 竹田純郎著



技術時代における宗教、  
キリスト教 竹田純郎著



深い思索の書である。時代の危機に対する鋭い洞察。その思索はルオーの描く名画『キリストと漁夫たち』に至る。もう少し言えば、かかる現代社会の危機に抗して、宗教とくに「生命の宗教」たるキリスト教に、役割はあるのか、と竹田氏は問う。この問いに對して、彼は、実に意想外の角度（ラインナップ）から光をあて迫っていく。それが本書の醍醐味である。（ちなみに本書は、前著『生命の宗教キリスト教』の姉妹編だというが、その前著のラインナップも迫力があった。レッシング、シュライアーマッハ、デイルタイ、ニーチェ、ウエーバー、カミュ、田辺元が論じられたのだ！）。

本書の全体構成（目次）は、次のとおり。

第一章 カニバリズム—武田泰淳の文学作品に即して

- 第二章 ナルシシズム
- 第三章 オリエンタリズムの彼方—シモーヌ・ヴェイユに即して
- 第四章 責任倫理—I.D.ボンヘッファーに即して
- 第五章 技術時代における宗教、キリスト教
- 終章 いつも場末にいるキリスト

竹田氏は、戦後、人肉食いをテーマにした小説『ひかりごけ』を書いた武田泰淳を論じ、ナルシシズムとグノーシスに根をもつ全体主義を風刺するカミュを論じ、シモーヌ・ヴェイユの思索の遍歴をオリエンタリズム克服として論じ、ボンヘッファーの責任倫理を「共に生きる生」の構築と論じる。意想外の展開である。そして本書の中核論文に当たるのが、第五章である。そこでは現代社会が真正面

から論じられる。竹田氏は現代社会を「技術的世界」と捉え、その現代の技術の本質を「総駆り立て体制(Gestell)」と断じたハイデガーに注目する。そして、かかる「総駆り立て体制」に抗するところにこそ、「生命の宗教」たるキリスト教の公共的世界に対する責任・役割があることを、緻密かつ力強く論じていく。

さて、終章は「いつも場末にいるキリスト」と題されてい。論じられているのはフランスの画家ルオーである。第一章から五章までの、いわば硬派の哲学・神学的論文から一転して、詩的な美的な調べが響いてくる。ルオーは聖書的風景を描いた画家である。そこに描かれるのは、最も弱く小さくされた人々の苦悩を共にする「いつも場末にいるキリスト」である。具体的には『キリストと漁夫たち』な

どを分析しつつ、竹田氏は次のように書いている。『彼(ルオー)が、秋の黄昏を好んで描いたように、秋の寂寥のうちに自らの身を委ねきらざるをえない貧しく小さくされた人びとが「苦難のキリスト」と共にいる』。

「生命の宗教」であるキリスト教の、現代における社会倫理を問われれば、それは貧しく弱く小さくされた人々への責任こそが、その中軸となると答えるべきだと、本書を読みつつ、私は思った。

(えぐち・さいき)ルター研究所所長  
(A5判・二二六頁・定価二二〇〇円・ヨベル)

## 黙想シリーズ

聖書 聖書協会共同訳

日々の默想

# 今ここに 気付く

150の祈りと瞑想

各黙想に、  
聖書の言葉と  
瞑想の実践法を掲載  
対象中学生から

神と共に自分自身でいるために  
クリスチャンのための  
マインドフルネス実践入門



著者

NEW



アイリーン・クレイゲル 著  
(心理学者)

合成皮革装・スリーブ入

天地175×左右110mm 360頁

税込価格 2,640 円

ISBN978-4-8202-9294-4



150th  
1857-2007

JBS



日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
<https://www.bible.or.jp>

## 信仰と知の関係を現代において改めて 問う——宗教を哲学するということ

〈評者〉 嶺岸 佑亮



鈴村 智久著

現代において信仰はいかに可能か  
かに可能か  
ヘーゲル宗教哲学の提示するもの



本書は、近代ドイツの哲学者であるヘーゲルの宗教哲学を、ヘーゲル哲学全体の中心部分をなすものとして初期から晩年の諸テクストに即して論じるとともに、現代におけるキリスト教信仰に対してもいかなる意義を有しうるかを示そうとした意欲作である。従来、ヘーゲルは内外で広く研究されてきたが、不思議なことに、宗教哲学に関するものは驚くほど少ない。ましてや、キリスト者の立場から正面切つてヘーゲルのキリスト教理解を解釈したものはほとんどないといってよい。その意味でも、本書の価値は大きいものといえる。

本書の第一章では、ヘーゲルの時間様相論が論じられるが、「大論理学」「本質論」の「現実性」を解釈して、「あらゆる出来事の時間的本質」としての「絶対的現実性」(三三頁)であるとする理解は、本書の基調をなすもので

ある。そのことについては、ベルリン期の『神の存在証明講義』を扱った本書の第二章で、「永遠なる神の本質とはこの現実性（今ここ）のさなかにあるということである」（九〇頁）とする主張からも明瞭に見て取れる。

ヘーゲルによれば、無限なものとしての神に対し、人間は有限なものと特徴付けられるが、本書ではさらに、人間の根本特徴として偶然性が挙げられている。この世界に生きる人間は、どのように生きるにせよ、何を行ふにせよ、そのあり方が限られているがゆえに壁にぶち当たる。それゆえに、人間は様々な苦しみを味わうことになる。だがそ

日本における聖書普及  
事業150年記念出版

旧約聖書  
**詩篇**  
四訳対照

文語訳 口語訳  
新共同訳  
聖書協会共同訳

歴代の聖書を、  
詩篇で読み比べ、  
味わってみませんか。



ハードカバー・ケース入

天地210×左右210mm  
文字の大きさ約8ポイント  
厚さ29mm 422頁

**定価 3,960円**

(本体 3,600円 + 税 10%)  
ISBN978-4-8202-4276-5



150th  
1867-2017  
JBS



日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
<https://www.bible.or.jp>

掲において、人間は神を精神として知るとともに、自らを精神として知る。このような事態は、「人間が神の精神を知る」ということは、精神に媒介として神自身を知ることである」（二一〇頁）と本書が述べるように、眞実には、神自身の主体性に基づくプロセスのもとにとらえ返される。精神を軸にした、人間と神の間でのこうした関係を相互承認の観点から論じる本書の叙述は極めて示唆的である。

本書の解釈の背景には、「私はあるという者だ」という「出エジプト記」3・14についての著者の理解があるといえよう。そのことはとりもなおさず、「この純粹な現実性において自己が神に全肯定されている」（一〇一頁）とする主張にも表れており、ここに著者のカトリック信仰の反映を認めるのは困難ではなかろう。ヘーゲルは『精神現

象学』で歴史性のモチーフを強調するが、本書のこうした論述が自己意識の歴史という、ヘーゲルの思想をどう発展的に解釈しうるか、ということは問う価値があろう。

本書のもう一つの特筆すべき点として、『精神現象学』における「不幸な意識」の解釈が挙げられる。「不幸な意識」がキリスト教の成立時期を念頭に置いて書かれたものであることは広く認められているが、同書の「啓示宗教」も踏まえた包括的な考察は驚くほど少ない。人間は生きている限り、それぞれに自らの十字架を担っていく。自らの不幸なありようにどのように向き合うべきなのか、まさにこの点において、本書は現代の読者に向かつて語り掛けようとしている。

（みねぎし・ゆうすけ）岩手大学人文社会科学院准教授

（四六判・三三八頁・定価三〇〇円・ヨベル）

## 原典に照らしながら読む楽しさ

〈評者〉 野村 信



イザヤ書註解II  
11—27章

ジャン・カルヴァン著  
堀江知己訳



カルヴァンの聖書註解は、新約聖書はもちろん、特に旧約聖書においてはヘブライ語の古典聖書を参考しながら読むとその解説が分かり易く、要点を的確につかめる。「註解書」の多くが、彼の「講義」において学生や初学者を対象に語った講義録を編集したものだからである。講壇にはセバスチヤン・ミュンスターの編集したヘブライ語『旧約聖書』（一五三六年出版）があつたはずであり、聴衆も机上の原典、あるいは写しを見ながら講義を聴いた。

カルヴァンの聖書註解の基本原則は、「簡潔・明晰」に執筆することと「著者（とその執筆を促した神）の意図」を探求することにあつた（『ローマ書註解』序文）。それは具体的には、聖書語句を配列順に、一、テキスト（語句）の説明、二、著者の意図、三、適応（展開）という三つのステップで逐一説き明かしたものであり、当時「節」はまだ

付されていなかつた（Vulgataに一五五五年に導入）。

このステップは聖書註解では、三の適応の部分が抑えられてはいるが、同書の説教においては著しい。また文脈によつて三つの順が変動する場合もあるが、この原則を知つていると註解書においても説教においても、滞りなく内容を追つていくことが出来る（詳細は拙著「聖書解釈と説教」「新たな一步を」（キリスト新聞社二〇〇九年、四四頁参照）。

イザヤ書の註解書は、カルヴァンの幾つもの註解書の中でも最も内容が充実した大作となつた。イザヤ書に関する二度の講解説教を行い、二度の註解書の出版に至つた。特に二度目の講解説教は、全部で三四三回となり、この成果が二回目の註解書の出版（一五五九年）に反映した。ジュネーヴ滞在の半分の年月がイザヤ書の講義、説教、註解に

費やされたことになる（Max Engamme の解説）。

今回、邦訳の『イザヤ書註解』第一巻（二年前に既刊）に続いて、第二巻が出版された。イザヤ書六章全体を註解した力作（一五五九年の第二版）の翻訳を完成するには後、数巻を要するであろう。第二巻はイザヤ書十一章からの解説である。読み始めると「キリスト」への言及が多く、驚きを禁じ得ない人もいるだろうが、それは、三の適応（展開）の部分が拡大しているからである。第十一章はキリストを預言する聖書箇所として有名である。

第一巻、第二巻ともに訳文は読みやすく、「」で挿入された訳者の念入りな補いは理解を容易にしてくれる。歩多きに心より賛辞と感謝を送りたい。但し、補いが必ずしも妥当していない、あるいは過多と思える箇所が少々ある

が、それは許容範囲内したい。

なお繰り返すが、カルヴァンの註解書は、『綱要』や『ローマ書註解』献呈文で触れているように、「聖書を躊躇なく読み進める」ことを目的としている。よって、『註解書』で聖書の中の語句や一部の意味を「調べる」とが当然あるにしても、「註解書を読む」ことが望まれる。そのためには今日へブライ語、ギリシャ語においても初心者のための聖書繙讀用の便利なツールがウェブ上に散見されるので、それを用いてこの『イザヤ書註解』を読んで欲しい。現代の数ある聖書註解書とは歴史的情報量や趣も異なるが、聖書を神の御言葉として読み進める上で、實に味わいのある内容と靈的な示唆に富み、驚きを禁じ得ない。

（のむら・しん）日本基督教団岩沼教会協力牧師

（A5判・六一六頁・定価八四七〇円・新教出版社）

# ナウエン・セレクション 第7回記本 新しい生き方 イエスについての ヘンリ・ナウエン 渡辺順子 訳 英隆一朗 説解



20世紀を代表する靈的指導者ナウエンによるキリスト教入門の名著。信仰生活とは何かを手紙の形で丁寧に説き明かす。

四六判並製・160頁・定価2200円

# 平和を受け継ぐ者に 戦争証言・使命・祈り 奥田知志 編



広島、長崎、沖縄、引き揚げ、本土空襲、宗教弾圧……『信徒の友』に掲載された戦争体験者の証言と平和への思いをどう読み、応え、歩み出すか。

四六判並製・144頁・定価1650円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

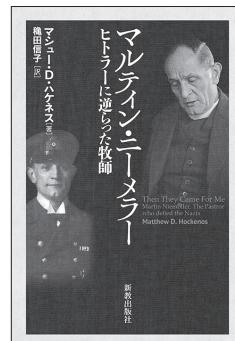
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigo@bp.ucci.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-ucci.jp>

## 当事者として生きた生涯を活写

〈評者〉 三村 修



マルティン・ニーメラー  
ヒトラーに逆らった牧師  
マシュー・ハケネス著  
鴨田信子訳



あるとき、クリスチヤンではない人に日本基督教団の歴史について説明する機会があった。「日本基督教団は戦争中、軍部の圧力によつて生まれた。戦後、そのことを反省した」と簡単に話したところ、彼はすぐにこう言つた。  
「『軍部の圧力によつて生まれた』と言つてゐる時点で反省になつていはない」。なるほど、人のせいにしているうちは、本当の意味での反省にはならない。

日本基督教団は一九六七年、鈴木正久議長名で「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白」を公表した。その後、この「戦責告白」をめぐる議論の中で繰り返し参照されてきたのが、シュトゥットガルト罪責告白（一九四五年）を生み出したドイツ教会の歴史である。この宣言文を練り上げたのがマルティン・ニーメラーであつた。

本書はドイツにおいても当事者性を受け、謝罪を言葉にしていくことがいかに困難であったかを描き出す。ユダヤ人を公職から追放する「アーリア条項」に反対して立ち上がったニーメラーなど牧師緊急同盟の人々でさえ、ユダヤ人迫害に十分な関心を向けることができなかつた。人はしばしば、自らの偏見に無自覚だ。

ニーメラーはドイツの歴史の当事者だった。プロテスタント牧師の家に生まれ、第一次世界大戦では潜水艦の乗組員として一八九隻もの船を撃沈した。ワイマール共和国時代には、皇帝への忠誠心が行き場を失い、牧師となる道を歩み始め、キリスト教によるドイツへの貢献を志した。第一次大戦で敗北し困窮しているドイツの再興を期待してナチ党に投票し、ドイツが国際連盟から脱退したときにはヒトラーに祝電を送り、教会闘争では、ヒトラーが自分たち

の味方をしてくれると確信してヒトラーとの会談に臨むが失敗して、八年間の収容所生活を送ることになる。第二次世界大戦敗戦後、東西分断と核開発競争の現実を前に、平和主義へと転じる（一九五四年）。本書の特徴の一つは、膨大な史料に基づき、ドイツへの深い愛情を抱く一人の牧師が他者との出会いや対話を通して少しづつ無自覚の偏見から自由になっていく過程を描き出している点にある。

著者の眼差しはささやかな出会いに向く。ワイマール時代の激しいインフレの中で、家族を養うために鉄道敷設の仕事に従事し、労働者階級の窮状を知ったこと、強制収容所では、国籍や教派の異なる「特別囚」とともに礼拝をさげたこと。

シュトゥットガルト罪責告白が発表される二日前、各國の教会指導者、つまり世界教会協議会設立を準備していた人々とドイツ教会代表が、聖マルコ教会に集い開会礼拝を行つた。世界に放送されるその開会礼拝説教の担当者がニーメラーであることを、彼は当日になつて知らされる。歴史的瞬間に何を語るべきか思い悩む彼に、エレミヤ書一四章の「主よ、我々は自分たちの背きと 先祖の罪を知っています」の言葉を示したのは妻エルゼであつた。

「キリスト者としての我々の罪責は、ナチ党やドイツ国

民、軍部のそれよりも大きいのです。なぜなら我々は、どの道が誤りでどの道が正しいかを知つていたからです……語るべき時に黙つていたために、我々は有罪です。」このような言葉でドイツの罪を語ることができたのは、エルゼやエキュメニカルな同僚たちの励ましがあつたからだ。彼の人生は「対話を通じて学び、変わること」の模範だ。

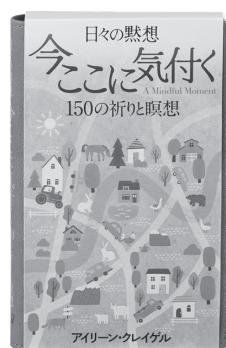
彼は自分が運転する車の事故で妻と家事スタッフを失い、罪悪感と深い悲しみに沈んだ。Uボートで撃沈し、彼が奪つた人々の命は、彼にとってどれほど重かつたことだろうか。

幼いマルティンは父に同行して信徒宅を訪問した際、職工の家で「イエスは何と仰るだろう」と刺繡された言葉を見た。彼の波乱に満ちた生涯は、まさにその問いに導かれ続けた人生であったのかもしれない。

（みむら・おさむ＝富坂キリスト教センター主宰）  
（四六判・四〇〇頁・定価四四〇〇円・新教出版社）

## マインドフルネスを活用し、心と体を整える瞑想を！

〈評者〉 柳田敏洋



日々の瞑想  
今ここに気付く  
150の祈りと瞑想  
アイリーン・クレイゲル著



この本の大きな特徴は、聖書の言葉の瞑想にマインドフルネス瞑想を活かしたところです。

まず、本の装幀がとてもよいです。革張りの装幀を思わせるシックな淡いブラウン色のカバーで、手に取ることができるサイズで、年間を通じて使うプライベートな手帳を思わせ、触り心地もよいものです。

この本の中には150の瞑想が、それぞれ横書きで、2頁ごとに紹介されています。左頁の冒頭に聖書の言葉が載せられていて、その聖書について瞑想のヒントが続きます。右頁には実践としてマインドフルネス瞑想の1種類が紹介され、気付きを書くスペースも用意されています。毎日の実践のためによく工夫されたレイアウトです。

著者のアイリーン・クレイゲルは臨床心理学博士で米国ミシガン州のカルヴァン大学でカウンセリングとウェルネ

スのためのセンター長を務めており、長年マインドフルネス瞑想を実践してきたクリスチヤンです。著者はマインドフルネス瞑想の中で鬱から癒されたようです。

キリスト教の瞑想というと心と頭を使う祈りが中心で、体はほとんど顧みられませんでした。一方、1970年代に上座部仏教由来のヴィバッサナー瞑想が北米に伝わり、宗教色を除いたマインドフルネス瞑想が開発されました。医療やカウンセリングの現場で鬱や種々の依存症などの再発防止に有効であることが知られるようになり、世界に普及しました。思い込みや怒りと一つになつてしまふ自我に対し、マインドフルネスの「今ここ」の価値判断なしの気付きが、自我からの解放に有効であることが明らかとなつたからです。

これは、つい自我から祈ってしまうキリスト教の祈りに

対しても有効なはずです。私はこれを自分の専門であるキリスト教的ヴィバッサナー瞑想の体験からよく分かるようになりました。

紹介されているマインドルネス瞑想は、ボディイスキャン瞑想、座る瞑想、移動瞑想、慈しみと祝福の瞑想などよく知られた瞑想法で、11種類掲載されています。

内容について具体的に見ていきましょう。例えば、「黙想4」では「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、

理の奇跡に気付く」（同126）、「隣人愛の瞑想」（同143）、「内なる神の泉に目覚める」（同150）などです。本書は「黙想32」のように番号表示だけなので、そこにテーマも表示されていたら、より使いやすいものになつたのではと思いました。

ストレスに巻き込まれやすい現代社会で信仰を深めるためには心身を統合する祈りが求められています。それを助けてくれるお勧めの一冊です。

（やなぎだ・とひろ＝イエズス会司祭・イエズス会靈性センター「せせらぎ」前所長）

（A5判変型・三六〇頁・定価二六四〇円・日本聖書協会）

惠みと平和があなたがたにありますように」（コリントの信徒への手紙二一・2）を祈るのに「座る瞑想」から呼吸に注意を向けるエクササイズを行います。呼吸に集中し、鼻の下で感じる温度変化や、おなかが膨らんだりへこんだりする感じなどに気付くようにします。これを3分程度おこないます。そうして著者は「あなたが何に気付くにせよ、神の恵みと平和は、一つ一つの息と共に差し出されています」と述べ、呼吸と共にある神の恵みと平和を感じるように導きます。

150の瞑想の内容は多岐にわたっていて、私なりにそれぞれテーマを付けられると感じました。「すでに届いている神の赦し」（黙想32）、「弱さの觀察」（同61）、「内なる批評から離れる」（同72）、「嫌な相手を思いやる」（同109）、「料

## 四訳の「詩篇」から見えてくる

翻訳の継承と進化

（譯者）春日いづみ



### 旧約聖書 詩篇 四訳対照

文語訳 口語訳  
聖書協会共同訳 新共同訳

日本聖書協会編



同訳、聖書協会共同訳が横書きに並び読み比べることがで  
きる。たとえば第一篇一節の各訳を見てみよう。

悪しきもの謀略にあゆます

つみびとの途にたゞ

嘲るもの座にすわらぬ者はさいはいなり

文語訳

悪しきものはかりごとに歩まず、  
罪びとの道に立たず、

あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。口語訳

日本における聖書の普及事業が始まつて今年で百五十年  
を迎えた。驚くことに一八七三年のキリシタン禁制の高札  
撤去からまもない七五年、七六年に、日本聖書協会の前身  
であるスコットランド、イギリス、アメリカの各聖書会社  
が横浜に設立されたのである。日本聖書協会では一八八七年  
に明治元訳、一九一七年に大正改訳、一九五五年に口語  
訳、一九八七年に新共同訳、二〇一八年に聖書協会共同訳  
を出版している。ほぼ三十年おきに改訂や新しい翻訳がな  
されている。聖書学や考古学などの研究の成果を踏まえ、  
時と共に変化する言語感覚を大切にしてきた所以である。  
それぞれの時代の人々に受け入れられることを願つて翻訳  
者は全精力を傾けたと思う。この度、百五十年間の成果の  
一端を披露するべく、記念として『旧約聖書 詩篇 四訳  
対照』が刊行された。見開きの頁に文語訳、口語訳、新共  
同訳がある者の道にとどまらず

いかに幸いなことか  
神に逆らう者の計らいに従つて歩まず  
ある者の道にとどまらず

傲慢な者と共に座らず

### 新共同訳

幸いな者

悪しき者の謀に歩ます

罪人の道に立たず

嘲る者の座に着かない人。

### 聖書協会共同訳

文語訳は格調があり韻律が整えられていて明治、大正期

のみならず現代も文学愛好家に人気がある。口語訳は文語訳を受け継ぐが、戦後定められた現代仮名遣いを用い、当

用漢字の字体、音訓に基づいている。新共同訳は、初の力トリックとプロテスタンントの共同訳でエキュメニズムの道を大きく前進させたと言えよう。センテンスが長いが、「悪しき者」を「神に逆らう者」に、「罪人」を「罪ある者」とし、人にレッテルを貼らない、決めつけない訳に、温もりを感じる。聖書協会共同訳は引き締まつた文体です一つと耳に入り、暗唱しやすく心に留まるのではないか。

筆者は聖書協会共同訳の日本語担当として主に詩文の翻訳、編集に携わった。その翻訳方針は直訳か意訳かといつたものではなく、「礼拝にふさわしい美しく格調のある日本語に」という目標が掲げられた。また、翻訳の第一段階

から原語担当と日本語担当が共に訳文を練り上げていった。豊かな日本語表現に親しみ、延いては日本の文化にも影響を及ぼすような翻訳を目指したといつても過言ではない。翻訳作業はあくまでも文語訳からの各訳の流れの上に築いていくものであつた。継承と進化の歴史をこの四訳対照は証している。十字架の透かし模様の施された箱に収まる瀟洒な装幀は傍に置かれ、日々の祈りに用いられるのにふさわしい。

(かすが・いづみ) 現代歌人協会副理事長、短歌結社「水甕」代表・編集人。聖書協会共同訳翻訳者兼編集委員)

(二二〇×二二〇mm・四二二頁・定価三九六〇円・日本聖書協会)

## キリスト教シオニズムとは何か

大宮有博著

世界がパレスチナを救おうとしない根本原因の一つであるキリスト教シオニズムを徹底的に分析し、欺瞞を暴き、対抗策を提示する。

A5判・96頁・定価1320円

## きのうの教会・あしたの教会

—2025+X

越川弘英著

コロナ禍の影響や社会状況の分析と著者自身の経験を縦横に組み合わせ、小さくても持続可能な「あしたの教会」になくてはならないものを探る。

A5判・160頁・定価2640円

## バトル神学への道しるべ

—日本の教会の歩むべき道は

上田光正著

日本の「プロテスタント教会が再出発るべき方向を提示する。バトルの「和解の神学」という大きな宝を学び直すための道しるべ」

A5判・312頁・定価4950円

## 宮本久雄著作選集 2

### キリスト教思想 愛とケノーシスの間（あわい）にて

宮本久雄著

アウグスティヌスやトマス・アクィナスといった人々が聖書やギリシア哲学を通じて開花させた靈的ハーモニーを探求する。

A5判・288頁（予定）・定価4620円

## 80歳から創めるキリスト教

—よく生きよく老いよく学ぶ

上林順一郎著

85歳の著者だからこそ語れる信仰の真髓とクリスチヤンの生き方の手引き。聖書の知識がなくとも、人生論としても読める入門書。

四六判・128頁（予定）・定価1540円

## NNTJ新約聖書注解 第1.ペトロ書簡

辻 学著

パウロ書簡や他の初期キリスト教諸文書との関連を捉えつつ、第一次トロ書を原語で読むことの意義が明らかになるよう努めた注解書。

A5判・256頁・予価4400円

## エフェソの信徒への手紙を読もう

—神の極彩色の世界

深澤 奨著

平和や人権、ジエンダーなどの具体的な事例をいくつも取り上げながら読み起こす意欲的な書。

四六判・160頁（予定）・予価1800円

## ■ヨベル

### 中学生の孫への手紙

—人生の難問に答えて

滝沢克己著

滝沢克己さんは孫への手紙も全身全霊。唯一つのいのちそのものを語る！「インマヌエルの原事実」の神学者・哲学者滝沢克己が、中学生の孫からの素朴な問い合わせに、真摯に答える7通の手紙を書いた。人を無条件の人たらしめる「根源のいのち」をどこまでも共に考えようとする熱情は、今の時代にお語りかけてやまない。

新書判・128頁・定価1320円

## 特殊啓示論 隠れた神からの語りかけ

濱 和弘著

「汝、ゴジラが上映されたならば公開初日の初回上映を見るべし」とは濱家十戒の第一戒（笑）。リテラリズム（字句拘泥主義）でとらえれば、ゴジラを見ない家人は処罰されるがナラティヴ（物語）として読めばゴジラ愛の言葉に「啓示された神の言葉である聖書」を、どのように解し、現代に読んでいけば良いのか。聖書

信仰に立つ一牧師が前著『普遍啓示論』（ヨベル、2024年）を続いてここまでを書いた！ 四六判・308頁・定価2200円

## 教導講話

——若き修道者のための言葉  
付録「ドイツ語説教」○番

マイスター・エックハルト著

阿部善彦訳著  
中世の神学者であり、靈性の巨匠が語るエックハルト版「君たちはどう生きるか」  
新書判・280頁・定価1980円

## ■キリスト新聞社 キリスト教年鑑

2025—2026年版

キリスト教年鑑編集委員会編著  
2025年1月～11月の記録とともに全国の教会、学園、施設、人名などの情報を網羅。1948年の創刊以来、通巻68巻。  
B5判・1180頁・定価1870円

「戦争の時代」にしないために  
——非暴力・平和主義を求めて

日本クリスチヤン・アカデミー  
関西セミナーハウス活動センター編

2024年4月から2025年1月までの修学院フーラム、シリーズ「戦争と平和」（関西セミナー・ハウス活動センター主催）の講演録に2023年12月の関連講演録を加え、2年間の成果を一冊に整理したものである。A5判・250頁・予価1650円

関西学院大学神学部ブックレット18  
ディアコニアでつながる未来  
——第59回神学セミナー

関西学院大学神学部編

COVID-19のパンデミック、難民の世界的な増加、格差社会の深刻化など、現代社会が抱えるさまざまな試練に直面している。人々が希望を見失いかけている今だからこそ、ディアコニアの使命を再確認する。

A5判・110頁・予価1650円

## ■新教出版社 組織神学 第二卷

ヴォルフハルト・パネンベルク著

佐々木勝彦訳

主著の邦訳全三巻がついに完結。この第二巻では、創造論、終末論、人間学、キリスト論、和解論が独特無比な仕方で展開され、二〇世紀後半における最大の組織神学的収穫であるパネンベルク体系の中核と全貌がここに明らかとなる。

A5判・660頁・予価900円

## ■教文館

活けるキリストの現実  
——キリスト教神学講演・論文集

近藤勝彦著

「キリスト者の完全」「勝利者キリスト」「イエスの無罪性」「神の協力者」など、多岐にわたる教義学的諸問題を論じた最新の論考。

A5判・228頁・定価3300円

私とは何者か  
——キリスト教の視点から

柳田敏洋著

評判の瞑想指導者による、神を信じる人とそうでない人のための、本来の「私」をめぐる入門的考察。

A5判・156頁・定価1430円

神の喜び、ここに始まる  
——マルコ福音書講解説教集

平野克己・吉村和雄編

説教塾の塾生による講解説教集。

四六判・568頁・定価3190円

ドイツ語圏宗教改革  
——ツヴィングリヒルター

森田安一著

宗教改革史研究の第一人者による待望の論文集。

A5判・472頁・定価6050円

# 脇坂美奈子 聖書の言葉と花の写真集 み言葉と花々と



175 × 185mm  
144 頁・1,100 円

掌にはいつも花々が、  
そして心には聖書の言葉があつた。  
人生で出会い得たこのふたつの至福、それらをひとつに織り込むようにして毎週の礼拝堂に捧げられてきた生け花たち。人生の四季を静かに生きてきた著者のたゆみない手のわざであり、その分身とも呼ぶべき花姿の数々を聖書とともに綴り合わせた写真集。

大きな反響!  
在庫僅少

## 私を遣わしてください

レントのこころ

異世界だが親しみがあり、人を寄せ付けないが人を惹きつけ、生氣はないが生命を与えてくれる——荒れ野は、危険と救いの両方をもたらす二面的な場。レントは、二面的な荒れ野に足を踏み入れるように招いている。

教会暦手引書の第2弾!

四六判・二〇〇頁・一八七〇円

## 意味は待つことにある

好評発売中!

反響!



アドベントのこころ  
教会暦に刻まれた「アドベント」「待降節」という待ち望みの期間を、聖書の登場人物たちの生き様によって辿りなおす最良のアドベント読本。四六判・一六八頁・一八七〇円

# チャレンジ! デボーション 鎌野善三 [訳]

日々の暮らし、そのすべての場が祈りの祭壇になる。スマホやタブレットカードを置き忘れてそのまま場で即、祈る。スーパー銭湯でもガリラヤ湖畔のイエスを思えばありがたくて祈っちゃう。日常のすべてがその場で祈りに変わる、ヨシミ流。



3刷 チャレンジ! 聖書通説  
新書判・一六〇頁・一一〇〇円

## 金子晴勇 キリスト教思想史の例話集 全6巻 III 「共生」の神祕



キリスト教思想史を学ぶすべての人、あたかも絵画を観るように理解できる例話集成! 第3回配本

新書判・二六四頁・一五四〇円

## 教導講話——若き修道者のための言葉 エックハルト 阿部善彦 [訳]

中世の神学者であり、靈性の巨匠が語るエックハルト版「君たちはどう生きるか」。本書は、エアフルトの修道院の院長であり、テューリンゲン地区における管区長代理である、説教者兄弟会のエックハルトが、若いドミニコ会士たちと行つた諸々の講話である。



話題!  
立教大学教授  
新書判上製・二八〇頁・一九八〇円

書店名	郵便番号	住 所	電 話	ファックス	URL	メール	郵便番号
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
エッサイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F	022-223-2736	022-302-6678	<a href="https://essainoki.jp/">https://essainoki.jp/</a>	shop@essainoki.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新宿2-8-2 千葉クリチヤセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	<a href="http://www.keisenchristian.jp">http://www.keisenchristian.jp</a>	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	<a href="http://www.kyobunkwan.co.jp">http://www.kyobunkwan.co.jp</a>	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11367
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	<a href="http://raishindo-books.jimdo.com/">http://raishindo-books.jimdo.com/</a>	taishindo@jicom.home.ne.jp	00110-8-95827
ハイブルハウス東京	169-0051	新宿区西早稲田23-18A(WBビル)2F(通販専門)	03-3203-4137	03-3203-4186	<a href="http://biblihouse.jp">http://biblihouse.jp</a>	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区門口1-44宗星閣口シルビア外版専門	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkhhan.co.jp	00130-3-69796
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区浜咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	<a href="http://www.mvabiglobe.jp/~mochitetsu/mochitetsu.html">http://www.mvabiglobe.jp/~mochitetsu/mochitetsu.html</a>	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	<a href="http://www.s-seibun.co.jp/">http://www.s-seibun.co.jp/</a>	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市熱田区星町3-16(本社)7F(翻訳叢書会館内)	052-680-8090	052-680-8091	<a href="http://nagoya-seibunshala.cococart.jp/">http://nagoya-seibunshala.cococart.jp/</a>	nagoya-seibunshala@nifty.com	00810-5-14073
ハイブルハウス京都	606-0007	京都府京都市伏見区五条23日暮御食持寺内	090-5138-7020	075-320-1844		kyoto-jbs@bible.or.jp	01010-2-594
ハイブルハウス堺	591-8023	堺市北区百舌鳥2-87 チャルコひづれ2F	072-255-4970	072-255-4971		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
大阪キリスト教書店	552-0003	大阪市港区篠路2-2-18 巻ルーティ教会F	06-6377-6026	06-6377-6027	<a href="http://osakacbs.web.fc2.com/">http://osakacbs.web.fc2.com/</a>	ochibook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖登社)	591-8044	大阪府堺市北区中尾町2丁1-18	072-254-2233	共用		sakaixx@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0025	神戸市中央区相生町45-12(神戸新町ビル)401	078-331-7569	078-945-9388		kobesx@nikikihan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun095@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一萬町1-23	089-921-5519	089-921-5413	<a href="http://www.geocities.jp/mitsuharu_007/mitsuharu_007.htm">http://www.geocities.jp/mitsuharu_007/mitsuharu_007.htm</a>	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	<a href="http://www.sinseikan.jp/">http://www.sinseikan.jp/</a>	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0071	熊本県中央区大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	<a href="https://www.okinawacbs.net">https://www.okinawacbs.net</a>	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販販専部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

# 福音と世界

2026年1月号

特集＝キリスト教保守とは何か

—その歴史と動向

寄稿者＝木村智、佐藤清子、藤野雄大、

岡谷和作、原田健二朗、吉田新

◆展望 変わる新約文書の順番（辻学）◆連載人  
物・日本キリスト教史（高能信生）／ばやき牧  
師のさすらい説教録（富田正樹）／異端者の世界  
航海（福嶋暢）／証言としての旧約聖書（田島卓）  
／新約聖書（山崎ランサム和彦）、他

A5判・定価660円・税込  
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL:03-3260-6148  
Email: sales@shinkyo-pb.com

## から室集編



小誌「本のひろば」2025年8月号の特集・シリーズこの三冊！に

おいて阿部伸麻呂神父に「教皇選挙」について取り上げていただきましたが、文中の記述について読者からのご指摘がありましたのでこの場を借りて補足説明させていただきます。

上使用できなくなつた」ためとの説明も行われたとのことです。  
ただご指摘の箇所は、教皇職が歴史的に内包してきた称号を全て掲げたものであり、そこに既に使用されなくなつたものが含まれていたとしても何ら問題はないと考えます。ですが「ラテン教会総大司教」が現代において用いられることがないことは読者も共有して然るべき情報であり、阿部神父とも協議の上に追加情報として掲載させていただきました。ご指摘いただきありがとうございました。

読者の皆さまには今後ともご愛顧いただきと共に、お気兼ねなくご意見・ご感想をお寄せいただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

（村上）

## 本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）「私の社会福祉観を変えた一冊の思想・

哲学書」横山穣

（書評）川中仁編『信仰と行為』木下裕也著『植村正久』を読む』、コディ・J・サンダース、アンジェラ・ヤーバー著『宗教活動におけるマイクロアグレッシヨン』、小高夏期自由大学事務局編著『苦難の日々を心に刻み、再生へ向かって歩む』、ボーラ・グッダー著『意味は待つことにある』、川島重成著『見知らぬ神の跡を辿つて』他

## 予告

### 本のひろば

2026年2月号

# キリスト教 シオニズムとは 何か

2025年12月16日刊行予定



現在のイスラエル国を支持するキリスト者が多くいるのはなぜか。その思想的根拠であるキリスト教シオニズムを徹底的に分析。

◆A5判変型・並製・96頁・定価1,320円

# きのうの教会・ あしたの教会 2025±X

越川弘英

日本の教会はコロナ禍を経てどのように変わったか。アンケートや著者の経験・分析を交えつつ、「あしたの教会」に必要なものを探る。

◆A5判並製・160頁・定価2,640円

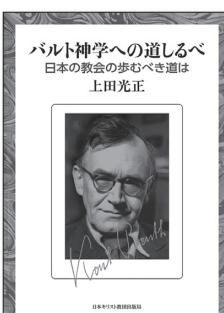


2025年12月17日刊行予定

# バルト神学への 道しるべ

上田光正

日本の教会の歩むべき道は



2025年12月19日刊行予定

## 『カール・バルト入門

—21世紀に和解を語る神学— 定価2,640円

## 『バルトによる説教論

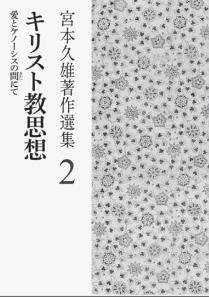
—聖靈に導かれる説教思想とは何か— 定価3,080円

上田光正の著書発売中

日本の、世界の教会が再出発するべき方向を提示する、バルトの「和解の神学」という大きな玉を学び直すための道しるべ。

◆A5判並製・312頁・定価4,950円

# 宮本久雄著作選集2 キリスト教思想 あわい 愛とケノーシスの間にて



2025年12月22日刊行予定

古代の教父や中世の神学者・キリスト教思想家たちは、聖書をどう受けとり、ギリシア哲学などを用いて解釈して深めたのかを探究。

◆A5判上製・290頁・定価4,620円

## 『1 聖書

—旅する神のダーバール（言即事）と共に—  
好評発売中 定価4,620円

## 『3 エヒイエロギア

—自らを超えて神の探究—

2026年2月刊行予定

シリーズ案内

# 神の喜び、ここに始まる

マルコ福音書講解説教集

平野克己、吉村和雄〔編〕力ある慰めの言葉



主イエスとはどのようなお方なのか？キリストを信じて生きると

は？マルコ福音書が語る神の国のか？キリストを信じて生きると

の使信を、聖書テキストの真摯な

探究によつて、研ぎ澄まされた言葉で説き明かす。故加藤常昭氏を記念して編まれた「説教塾」の塾生46名による講解説教集。

● 四六判・560頁・定価3,190円

おもな執筆者

青木豊、川崎公平、楠原博行、郷家一二三、本城仰太、平野克己、宮井岳彦、安井聖、吉村和雄

## 新約聖書の祈りと倫理編

ウイリアムズ神学館叢書VII

今さら聞けない！？キリスト教

嶺重淑〔著〕

「主の祈り」の意味は？

パウロの「愛の賛歌」とは？

聖書学者が平易に解説！



「愛の宗教」を生み出したイエスの隣人愛の教えはどのようなものだったのか。献金という行為は最初期の教会でどう捉えられていたのか。キリスト教の核となる倫理思想の源泉を掘り下げ、現代の私たちの生き方を見つめ直す。

● A5判・472頁・定価6,050円

## ドイツ語圏宗教改革 ツヴィングリヒルター

● A5判・472頁・定価6,050円

都市構造の研究と木版画などの図像研究を鍵に読み解いた宗教改革研究の新地平！多角的なアプローチから浮かび上がった宗教改革運動の新しい輪郭。半世紀にわたる探究の集大成——宗教改革史研究の金字塔。

12月の新刊 ● 価格表示は税込

思想は  
一人歩きをしない！



著者

著者